

春爛漫 ～パステルカラーの中で～ 春探しでリフレッシュ！

桜の花びらでグラウンドにピンクの絨毯が敷かれたと思っていたら、山笑う季節。山がもこもこと膨らみ、木々が緑の葉を広げています。職員駐車場のドウダンツツジも小さな鈴のような白い花をつけました。ドウダンツツジは漢字で書くと「満天星」。その花の姿を言い当てている当て字になるほど…と思います。



自宅での学習が続いておりますが、プリントにとどまることなく、どんどん興味・関心を広げて自分（家庭）で＋αしてみましよう。何の規制もないので、何年生の学習をしてもいいですし、春の花を集めて名前を調べたり、タンポポの根っこの深さを確かめてみたり…。普段学校ではなかなかできない個別の個人追究がじっくり自分なりの時間をかけてできるときです。

4月当初の登校の朝には、「はい、校長先生！」と摘んできた露の葉をもらったり、「甘いよ」とヒメオドリコソウとホトケノザの花の蜜を試して、「こっち」の方が甘い！と発見したり。子ども達と話していると、自分たち大人が当たり前だと思っていることは、こうやって獲得されてきたのだと改めて思うと共に、言われたこと教えられたことをそのまま覚える以上に、どうしてだ

ろう、こうやったらどうだろうと考え、自ら追究するものを見つけ試行錯誤していく力をつけることが、今の子ども達にとって、大切な力「生きる力」です。先がなかなか見えず、イライラしたり、不安でドキドキしたりするけれど、いつ学校が始まってもいいように、心と体の準備をされていて下さい。

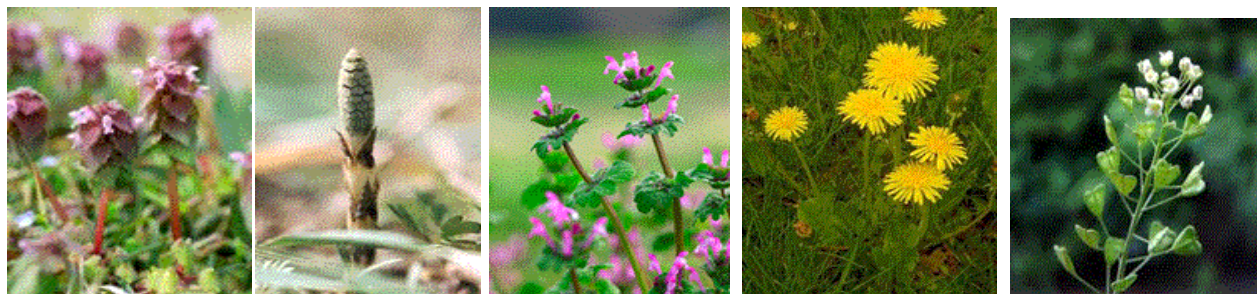
臨時休業中、ご家庭にお願いすることが多々ありますが、1年生は6分集中して字が書けたら「すごいね」と認めてください。2年生は15分続いたら、「よくやったね」と褒めてください。学校の授業は1校時45分ですが、その中には問題を読んだり、予想をしたり、聞きあったり、話し合ったり、分かったことをまとめて、もう一度見直してみたりと、1つの学習のまとまりが5分～15分で仕組まれ、節目やメリハリがあります。ですから、45分ずっとプリントをやれたなら、すばらしい学習体力があるということです。なかなか進まないお子さんには「どこで困っているのかな。どこを見ればいいのか、どうやればいいのか、一緒に考えよう。（教えるのではなく、子どもの困り感を受け止めて一緒に悩んでください）」または、「先生に聞いてみようか」と、どのように解決を図るか、学び方を相談してください。サッサと進められるお子さんには、「え、どうやってやったの」と考え方を聞いたり、「お母さん（お父さん）にも、同じような問題出してみて」「他でも使えるのかな」と発展させたり、「他のものも調べてみようか」と活用したりしてみてください。本来なら、学校の授業の中で学び方や学ぶ楽しさを体感していくとこ

ろですが、今はご家庭のお力をお借りして、子ども達の学びを少しでもよりよいものにしていただきたいと思います。こんな時どうしたら…ということがありましたら、どうぞ学校にご連絡ください。子どもたちの成長を共有し、「自ら学び 共に伸びゆく」姿を育てて参りたいと思います。

【春のコラム】

子どもたちが作ってくれる様々な種類の花が入った花束。ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ナズナ、イヌナズナ、タンポポ、オオイヌノフグリ、ツクシ…。大事そうに手の平に載せてきてくれた桜の花びらは、ガラスの器に水を張って飾りました。

3年生は初めての理科で「春の草花」の学習が始まります。改めて校地内を回ってみると、今まで気付かなかったような発見があるものですね。 **どれがどれだか分かるかな？**



そういえば、小布施には「日本タンポポ」が咲いている場所が何カ所かあるのですが、まだ健在でしょうか。セイヨウタンポポに押されて、なかなか見ることができなくなっています。発見したら、教えてください！

と書いていたら早くも5月。若葉の季節です。いろいろな緑がありますが、日本には、伝統色といわれ少しの違いから一つ一つに名前がつけられています。あるサイトでは「緑系」の日本の伝統色が何と「81色」にわけられていました。同じ緑の葉でも、太陽を透かしてみる緑と上から眺める緑と違って見えますね。同じに見えても違うもの、違って見えても同じものなど、家族で感じ合うのも「目から鱗」です。

「自分の命は自分で守る」 第一回避難訓練（4/9）

◇一番のポイントは **“知ること と 動けること”** 1回目の避難訓練の目的は、避難経路と避難の仕方を知ることです。「お（押さない）・は（走らない）・し（しゃべらない）・も（戻らない）」の実践と、地震が起き火災発生という想定で熱風や危険な気体を吸い込むことを防ぐためにハンカチを口に当てる行為。そして大切なのが避難した後の待機の仕方です。自分の身を安全な場所に置くこと。頭を保護すること。状況を知るため、よく耳を澄ませて放送等の指示を聞くこと。1年生も全校で取り組む緊迫感からか一生懸命に行動していました。**全員無事避難完了！**

このところ、予想もしない…想定外の自然災害が日本各地・世界各地で発生しています。

本気でやる・もしものことを想像して動く…全てに通じる基本の姿勢です。

ご家庭でも是非、もしものときにどう行動するかを確認すると共に、懐中電灯やラジオ、ティッシュペーパーやタオル、飲料水、非常食等、点検しておいてください。

交通安全は「注意一秒 けが一生」

自転車の正しい乗り方や歩行、横断の仕方を再確認し、交通事故防止に努めながら生活しましょう。新学期にあたり、交通ルールを守るという社会性を身に付ける大切な機会です。

自転車も遊びとして乗り回していますが、軽車両としての責任やルールの意味を知って正しく乗ることを自覚することは大切です。子ども側に違反のある負傷事故だけでなく、自転車乗車中の児童・生徒等が加害者になる事故のケースでは、保護者の責任が問われます。

【自転車 豆知識】(^_^)v

自転車は軽車両に該当し、①**刑事上の責任**：相手を死傷させた場合、「重過失致死傷罪」
②**民事上の責任**：被害者に対する損害賠償の責任、③**道義的責任**：被害者を見舞い、誠実に謝罪する責任、を問われます。加害者が未成年でも責任が問われることもあります。

【こんなケースが】小学生が自転車で女性をはね、女性は寝たきり状態になってしまった。裁判所は母親の保護者責任を認め、保護者に9,500万円の賠償金を支払うように命じた。

令和元年（2019年）10月1日から、長野県内で自転車を利用する際には、自転車損害賠償保険等への加入が義務化されています。ただし、未成年者は原則として対象外となり、保護者が、その責任を負うことになります。【第14条第2項：保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、未成年者を現に監護する者をいう。）は、その監護する未成年者が自転車を運転する場合は、当該未成年者の自転車の運転に係る自転車損害賠償保険等に加入しなければならない】 **ご確認ください！**

【小・中学生総合補償制度】について

【令和2年度】 **小・中学生総合補償制度のご案内**

自転車事故でも高額な損害賠償金を請求されます!!

ケガをした	ケガをさせた	物をこわした	病気で入院した
通院1日超から補償 ※ケガは交通事故のみ	自転車等で行き交す相手を ケガさせた場合	家庭の物もこわした ※全プラン	自他入院入院から補償 ※Hプランのみ

○本制度は「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例」に対応した制度となっております。
○全プランに日常生活個人賠償責任補償特約（示談交渉サービス付）が付帯されています。
○保険加入には必ずて保険料は約55%割増です。（注）
（注）上記割増率は、この制度の補償範囲と保険料の支払額に基づいて算出されたものであり、今後変更となる場合があります。

長野県PTA連合会

共済社 共済火災海上保険株式会社（お問い合わせ） 小・中学生総合補償制度担当係
電話：026(234)2180

プラン別保険料（月1回）	申込開始日（申込書提出）
4月1日締切分	3月25日
5月1日締切分	4月24日
6月1日締切分	5月23日

2年生以上には昨年度中（3月）に1年生には入学式の折に配布した黄色の封筒ですが、ご覧いただいたでしょうか。この保険は日常の暮らしの中にある様々な危険を24時間補償する制度で、個人の任意加入です。いつでも、どこでも児童・生徒のけがに対する補償と賠償責任を補償するものです。子ども自身が怪我をした（傷害補償）、窓ガラスを誤って割ってしまった・

自転車走行中にお年寄りとお年寄りとお年寄りとお年寄りをぶつかりけがをさせた（賠償補償）等の例が挙げられ、賠償補償は、子どもと同居の親族も対象になっています。長野県PTA連合会によってつくられている制度です。内容をご覧くださいご利用下さい。

《令和2年度のキーワード》 「感じる」「捉える」「つながる」

令和2年度の学校目標

「自ら学び 共に伸びゆく子ども ～豊かな心とたくましい体を育て～」

家庭・地域と連携して児童一人ひとりを大切にしたい教育活動を推進する。

- ①基礎学力を身につけ、
- ②互いに認め合いながら自らの可能性を伸ばし、
- ③活動に浸り込む活力ある子どもを育てる。

重点活動 『感謝の思い・自尊感情・自己肯定感を高める』

子育て四訓

- | | |
|-----------|-------|
| 一 乳児はしっかり | 肌を離すな |
| 二 幼児は肌を離せ | 手を離すな |
| 三 少年は手を離せ | 目を離すな |
| 四 青年は目を離せ | 心を離すな |

一人一人が様々な活動を通して「自分らしさ」を見だし、個性を確立していきます。「子育てを通じて、親である自分自身も育てられてきた」…子どもの成長につれ、親として求められることも変わっていきます。また、社会の変化に対応しながら子どもを正しい方向

へと導いていくことは親にとっても至難のことですが、常にも子どもが社会の発展に役立つ人間として成長していくことを祈り続けたい…と思います。

子どもたちが自分の力を発揮させられるよう「自分も満更でもないな(*^o^*)」と思えるように、子どもたちを信じ、認めていきたいものです。認められた子は、人を認めることができます。結果ではなく、一生懸命やったことや工夫したことなどの過程に共感することで、試行錯誤をし努力を楽しみながら創造する力が育ちます。重点活動は、まず「子どもをよく見、声をよく聴くこと」から Start！

今年度も子育てのパートナーとして、よろしくお願い致します。

令和2年度 栗ガ丘小学校グランドデザイン

